

神戸とデザイン特集(1)

□対談／デザイン・イラスト
よもやま語り

良いものは
軽やかに。

早川 良雄氏

△グラフィックデザイナー△

灘本 唯人氏

△イラストレーター△

★7月号は「神戸とデザイン」がテーマ。そこで巻頭対談として昭和から平成にかけて第一線で活躍されている大阪出身のグラフィックデザイナー、早川良雄氏と神戸出身のイラストレーター、灘本唯人氏に、デザインに関する様々なお話を、うかがった。

司会／本誌編集長

小泉 美喜子

★早川先生の顔を拝見するだけで興奮する！

早川 僕がこの道に入ったのは大阪の市立工芸学校に入っちゃったからです。学校の先生が、そういうのがいいだろうと、まだ子供でしたからね。これも偶然のいたずらでしょうね。昭和5年ころのお話ですから。

灘本 僕は早川先生に憧れてこの世界に入ったんです。

僕の世代は先輩達に憧れて、この世界に、という道がありましたね。絵心というものがつきはじめたのは23くらいで、戦後溶接工やったりしてましてね。焼跡やヤミ市派です。それで、近鉄などの早川先生のポスターをみて、こういう仕事をやりたいと思うようになったわけですね。

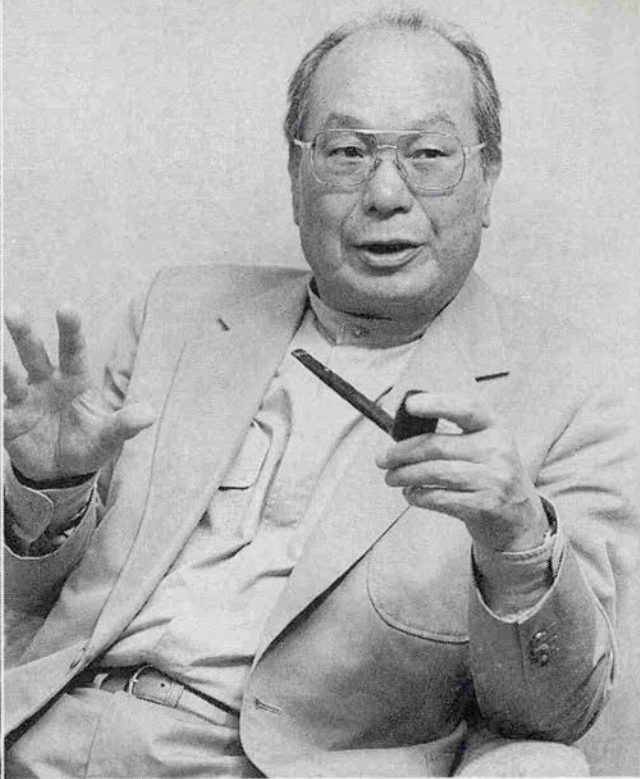
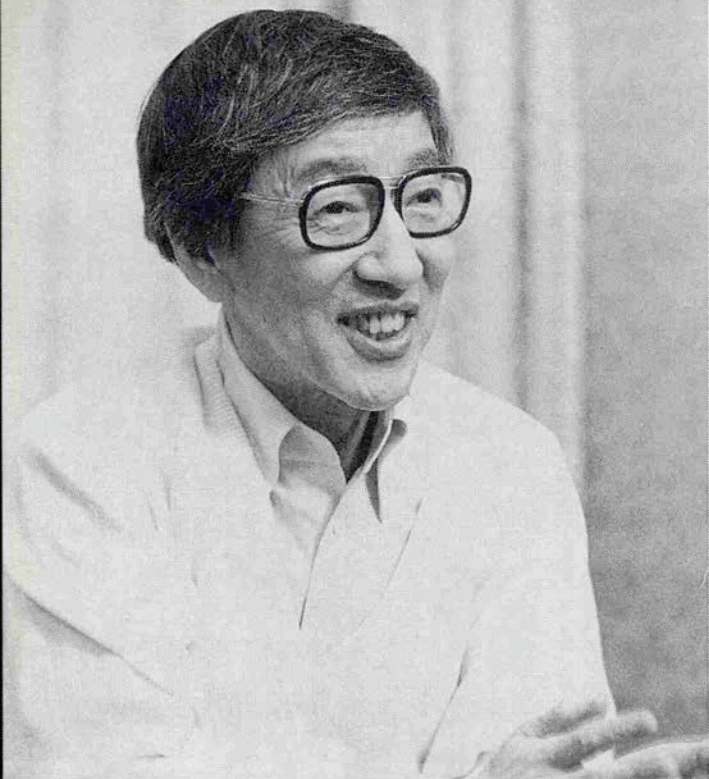
早川 ところで、僕が近鉄やめて「CARON洋裁研究所」の小さい部屋2坪くらいのを無料で提供されたのが、事務所の発端なんですね。家賃も無料でしょう。それでカロン・フアッシュ・ジョン・ショーのポスターなんかを、

家賃のお返しで描いたりしてたんですね。そのころの作品が僕のデビュー作となっていますね。それは幸わせな出会いだったんです。近鉄の3年間とカロン洋裁がなければどうなっていたか、わかりません。(笑)僕は昔から自分の意志でこうしようということがほとんどなかったですね。今の芸大の卒業生っていうのは大変ですね、時代の差というのでしょうか、競争相手も多いし。

灘本 昭和32年頃だと思っています。兵庫県デザイン展というのがありました。その審査に早川先生がいらっしやるということでした。その作品が、先生のお目ガネにとまって幸運にも先生との交流が始った次第です。当時は顔を拝見するだけで興奮するんです。(笑)今でもそういう気分になります。(笑)

早川(笑) 本当かなあ。

灘本 当時関西人も東京へという時代でした。早川先生もそういうお気持ちがあったんですね。僕は山陽電車にいたんですが、ある日早川先生に呼びだされたんですよ。



「先生の顔を拝見するだけで興奮するんです。今でもそういう気分になります」と瀬本唯人氏 「本当かなあ。今でもその気持ちをもっていただけたらいいんだけどなあ」と早川良雄氏

ね。で、ちょっと話があるっていうんで舞い上ってしまったままG線へ飛んでいったら、先生が、君と一緒に仕事をやりたいとおっしゃったんですよ。とにかく早川先生と仕事をするっていうのが僕の中では名誉だったんです。早速、山陽電車に辞表を出して、あこがれの早川事務所に入ったのです。それがカロン洋裁の二階で場所は一等地でしたが、エーというほど汚ない。(笑) ねずみが走っていた。(笑)

早川でも、さっきいったあの最初の気持ちを今でももっていてくれたらいいんだけどなあ。かわればかわるもんですよ。

瀬本 (笑) でも早川先生の偉大さというのは当時西の早川、東の亀倉(雄策)と競い合っていましたよ。そういう偉大なグラフィックデザイナーというのが僕の認識の中にあるわけですね。その中で先生のイラストレーションというのは異才を誇っていたのです。それまで僕はアカデミックな小磯先生とかに影響されていましたが、それが早川先生の作品に出会ってから、自分の中で啓蒙されたところがあります。先生は謙遜されておっしゃいますが、影響うけるサイドとしては大きいものがあります。ただどあのゆがんだ先生の絵を好きになった僕も悲劇といえ

悲劇ですね。(笑)

早川 (笑) 僕も本当にそう思いますよ。

灘本 でもね、ああいうタブローの世界というのは家元制度に通じるようなところがありますよね。僕はそれより一匹狼の方が性に合っていると思ひデザインの世界に入ったのです。我々の仕事というのはい仕事さえすればすぐ一線で活躍できるし、じめじめした序列がないのだけ、いさぎいい訳です。ところで今の若い人達ですが選択のメディアがありすぎてかえってむづかしいですね。

早川 ライバルが圧倒的に多い。我々の時代はもっと素朴でした。昔はもっとシンプルでしたよ。

★なぜ東京へ行くようになったのか？

早川 とにかく東京に拠点をつくらうと、無理しましたが、ムーランライトという真夜中の飛行便で、何年間か東京・大阪を往復しました。

灘本 でも、早川先生の夢と現実ギャップが大きすぎます。(笑) 銀座一等地、はじめてエレベーターのついたビルで。経済的なバックも何もないのに。それでデスクだけあって椅子がない。向いの大日本印刷から椅子を借りた。(笑) 仕事は何もない……。

早川 普通、名古屋なら名古屋、東京なら東京、ニューヨークならニューヨークにこういう仕事があるからオフィスをつくらうというわけですが。僕はとにかく拠点をつくらうと思ったわけです。敷金払って家賃払ったらお金がなくなってしまう。(笑)

——それでどうなされたんですか。

早川 それで彼が、苦勞したと思うんですけど、デザインの仕事どころではなくて外交屋みたいになっていろいろがんばってくれたんです。

灘本 たまたま電通の方が、近鉄で早川先生と一緒に机を並べてやっておられたんですが、みるにみかねて日本石油のポスターをと仕事を下さったんです。それで僕は帰って早川先生に『先生仕事を頂きました。先生御あい

さつに行って下さい。』という、会うのがイヤだとおっしゃる。とにかくわがままで……。 (笑) それが東京での第一作で、徐々に経済的にゆとりが出てきた。そうすると先生はみさかなくなり事務所へ人を入れるわけです。早川良雄事務所ということで、いろいろ人が来る、そうすると人情として断われない。勝手に入れちゃうんです。黒田征太郎とか白石和子とかどんどん入れた。それらの僕は番頭だったんです。

早川 5年間ほど番頭をやってくれて、ある日ちよっと話がありますといわれ、珍らしく喫茶店に行ったんです。そうすると『この5年間勤めましたが、先生にはホトホト愛想が付きはりました。これからひとりやります』と言われましてね。(笑) エーッと僕は驚いたんです、鈍感で気配を感じなかったから。(笑) それでねびっくりしたんですけど、これは無理もない。(笑)

灘本 ですけど僕は早川先生とお知り合いになっていろいろな作品を創っていくプロセスを目のあたりにみてたでしょう。それが凄いです。ポスターカラーで色を塗った作品を突然雨が降ってきたっていうんでそれを外に出しちゃうんです。そしてひっこめて、ぞうきんでこする、そうするときれいなムラができます。そういうことを平気でやっちゃう、我々の常識では考えられない手法なんです。そういうのをかいまみると、欠落している部分というのはいっぱいあるんだけど素晴らしいということで帳消しになる。

早川 そうすると、やはりプラスになったのかなあ。

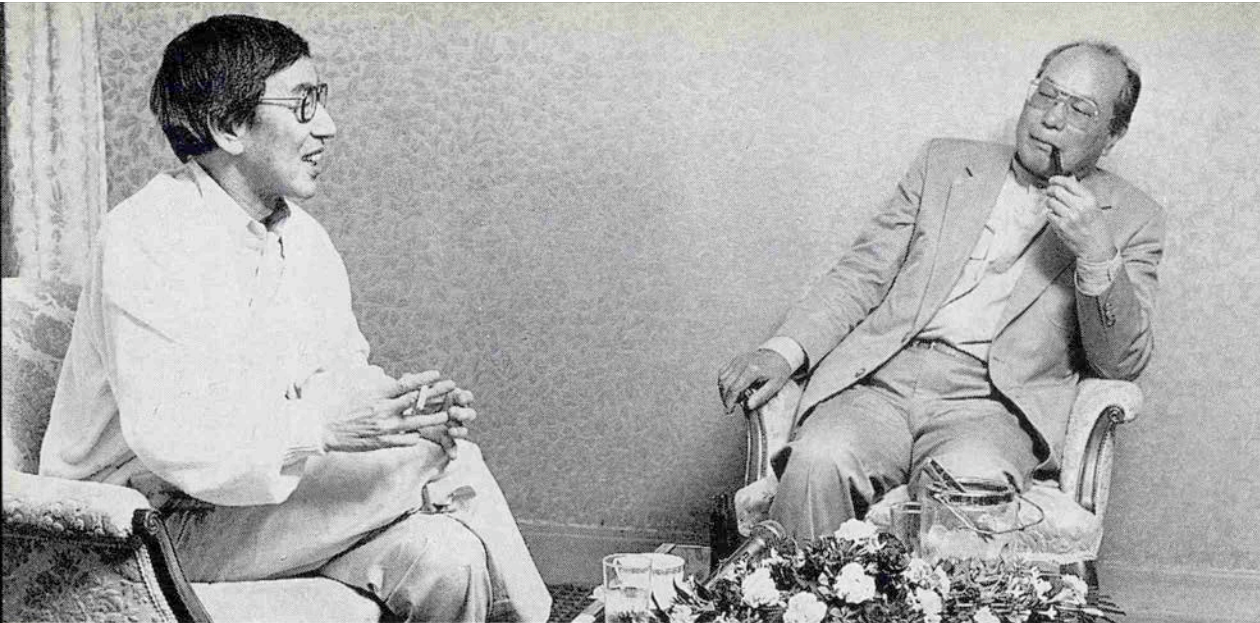
灘本 全然なっています。(笑)

早川 そうかなあ。(笑)

灘本 とにかくいろいろありましたけど、お金に関していえば、英国屋でスーツのいいのを作ったり、飲み屋の請求。昭和35年当方で30万ですから、ひと財産です。

——先生、それだけ遊んだり、飲んだりしたのは今でも身につけていますでしょうか。

早川 とんでもないです。当時の、飲み屋の請求30万と



東京・新橋第1ホテルで対談中の早川、灘本両氏

いうのは確かに大きなお金ですが、それは僕の遊び盛り、飲み盛りだったわけです。

灘本 でも先生は一人で行くのが嫌な人でした。誰かを連れていく。昼はものすごく厳しい姿で仕事をしています。それがだんだん陽がかげつてくると、『灘本君、ちょっとラジオつけて下さい』とおっしゃる。それで松尾和子の『誰よりも君を愛す』なんかきいていると気分は飲み屋です。(笑) そこから人格がわかるんです。(笑) それで、6時ごろになると『灘本君、今日の予定は?』僕らはあるって言えないんです。で、『ごいません』というと、『じゃ、飲み屋へ行く』とくる。(笑) 飲み屋へ行くと、『先生いらっしやい』と歓迎してくれる。それでしばらく先生の横に座っていると、『君まだいたの』とこうくる。(笑) ドアをあける瞬間が人に聞かせたいんですね。あとは用済みなわけです。(笑) だんだんわかってきて、これは断わった方がいいと思うと、誰か他の人を連れていくわけです。(笑) でもいいデザイン修業になりましたね。

灘本 考えようによると全部がプラスになりましたね。

★関西人のデザインには遊び心が…

——デザイナーにとって遊ぶことも必要でしょう。

灘本 遊びを含めた感性みたいなものをものには必要なんですけれども。バランスを考えない遊びというのものもあるでしょう。(笑) やはり天才ですから。(笑) 僕らの仕事というのは密室作業ですから、裏返しに誰かと接点を持ちたいというのが夜になると猛烈にでてくるんです。だから先生の場合はたまたまそれが飲み屋だったというわけです(笑)

早川 僕は不純な生き方をしましたが(笑) 灘本君はピュアでしたから。僕は純粹遊興でした。

灘本 ただ飲み屋のママさんなんか頼まれてコースタとかマツチとかいうものに描いておられましたね。作品としてはとても小さいですが、それが素晴らしい

です。だからだてに遊んでいるんじゃない、それが早川良雄の世界だと思えますね。先生の才能は凄いなあというの、飲みながら、そういう刺激を頂けたということです。そしてマッチならマッチの概念というのが。それがそんなのをおかまいなしに、イラストレーションが裏側まで続いている。小さな作業の中でも光るものを発見するというのがありましたね。

——マッチが光るのも大きな仕事をするのも同じだと思えます。その辺が関東と関西の違いだと思いますね。先生が今東京にいらして東京の人の方法論と関西人のそれが違うというのがありますか。

灘本 東京の人は真面目ですね。東京のグラフィックの



早川良雄氏経歴

- 1917 大阪生
- 1936 大阪市立工芸学校図案科卒
- 1952 三越、近鉄百貨店宣伝部などを経て、フリーランス
- 1954 「大阪府芸術賞」
- 1955 第1回「毎日産業デザイン賞」
- 1978 第13回造本装幀コンクール「通産大臣賞」
- 1981 第12回「講談社出版文化賞」
- 1982 「紫綬褒章」
- 1988 「勲四等旭日小綬章」

みたいなあとというのがありますね。

★女の心情・表情を軽みの良さで描く

人達をみていると早川先生と流儀みたいのが全然違うと思いますね。関西風土で育った人というのは遊びの美学みたいなのを自分で探っていくというのがありますね。早川 昔は、仕事の時間が終わってバーなんかで飲んでいても、東京の仲間は仕事の話ばかりっていうことがありましたね。ところが、大阪的風土、関西的風土といってもいいですが、仕事の話なんかはしない。僕達の世界だけでなく一般的にもあるんじゃないでしょうか。それを東京のタイプとすれば、あまり粋じゃないですね。ところが、東京側からみれば、また別のいい方をするでしょう。僕は四六時中仕事につきまといっているというのは好きではないですね。

灘本 東京の人からみて早川さんはあれだけ遊んでいてどうやってあれだけのボリューム、質のよいものを創れるのかというクエスチョンというのがあると思います。——デザインにも遊び心があるというのは環境によって違うと思いますが、東京にいらして何年ですか。

早川 家族をこちらにょんで20年、事務所を作って30年になりますね。

灘本 同じ道づれですね。(笑)僕は東京は戦いの場、いいの場ではないと思えますね。ですからある年齢になると関西に帰りたいなあというのがありますね。早川先生のように過去の実績をおもちなのと、僕はちがう、まだまだと仕事をしなくちゃいけない。好きな様に描いて

灘本 僕は早川先生のところをやめて、出版の作業に入ったことがあります。いつとき出版関係で連載20数本をもったときの戦いというのは凄じかったですね。どの作家の絵を描いているのかわからなくなった。その間にカレンダーの仕事なんかが入ってくる。そういう修羅場もあった。それで21本を15本くらいにして、徐々にへらして今のレギュラーの仕事が4本か5本くらいです。そのペースでいくといいです。早川先生のように大きな仕事というのがない。先生は、近鉄のポスターとか、イン

バクトの大きい仕事ですが、僕はカットとか本当に小さいですね。

早川 大小でいっちゃいけませんよ。

灘本 だから小さなもので光るものができれば、それはそれでいいんですが、小さなものばかりやっているとなに大きなものもやりたいんです。

早川 山形へ行った時の話なんです、小さな飲み屋へ連れていかれたことがあるんです。そうしたら日本歌謡曲集とか何とかいうぶ厚い本があった。表紙が灘本君の絵です。ああ、こんなところで、なぜ灘さんに会わんならんか、となんかイヤナかんじがしましたね。(笑)考えてみると僕の創ったものはそんなところへいって



灘本唯人氏経歴

- 1926 神戸市生
- 1956 山陽電車宣伝部に嘱託入社
- 1961 早川良雄デザイン事務所に入所
- 1967 フリーとなり現在に至る
- 1970 日本サインデザイン協会金賞受賞
- 1979 講談社出版文化賞受賞
- 1983 講談社より「人間模様」出版す
- 1984 ソウルにて日本人初のイラストレーション展を開催す
- 1986 フジサンケイグループ雑誌賞受賞
- 東京イラストレーターズ、ソサエティ代表

ませんよ。(笑)

灘本 地方区ですから(笑)

早川 たとえば、レベルの低い話ですが、地方へいって灘本唯人と早川良雄の名前をどちらがよく知られているかという灘本唯人ですね。

灘本 それはたまたま出版というものをやらせてもらっているから作家と同列に名前が並んでいるだけです。それがコマーシャルの時にメリットがあるわけです。だから出版をおろそかにしてはならないというのが自分の中にあります。出版というのはつどつど作家とコンビが変わりますからおもしろさがあります。

早川 それからもうひとつね、昔、僕の絵をみた人が、

これ灘本さんの絵にそっくりですね、といわれたことがあった。(笑)その人は僕のことを知らない人です。やはり、灘本君は全国区なんです。これも、どこかの田舎での話です。それは、灘本さんの絵が、はやく広い地域に知られているということがあるからです。21本の連載を一度になさったからです。ある意味で勝負は負けですね。

灘本 早川先生のところをやめてからずいぶん、早川先生の絵に似ていますねといわれましたね。だからそれたちきる作業がたいへんでした。

★女性に対する憧れが描かせる

——早川先生も灘本先生も女の人を描くのがお上手ですよ。それをぜひききたかったのですが。

灘本 僕は早川先生が近鉄で女の人に口紅やお化粧するのを見ていました。それで、ふうんと思っていました。が、はじめは早川先生と同じような絵を描いていました。そうすると皆に攻撃されました。それで目のまわりを真黒にしていました。早川良雄とどこか変えなないといけない。(笑)でも体のデフォルメはどうしても似てくるんですね。造形的なことはもちろん早川先生の方が優れているんですね。

早川 女性に対する少年っぽい憧れが、それが女性を描かすんでしょね。

灘本 先生は美女をあまり描かなかったですね。

早川 本当の絵はその人物の人格というか性格というか内的な精神性も描かないといけない。ところが、「表情」というものは絵画としては二の次三の次なものです。僕は中身より、もちろん中身は表情にですが、表情の美しさ、私好みの追求してきましたね。だから本当の意味の造形をとらえるよりも、悲しみとか、喜びとか、そういう女の情緒を表現することが好きなんです。竹久夢二とか、そこまでいくと重くなりますが、軽みの良さというんでしょうか、そういうものが感じられます。

灘本 日本人でやたらセンチメンタルで竹久夢二とか、どこの背中に淋しさをひきずっているようなものを好みますね。演歌が好きなように。早川先生の場合はそこま



1960年頃早川事務所で

でいかな。むしろ造形美でしょう。音楽に例えれば何でしょうかね。ヴィヴァルディとか。以前五木寛之さんとサンTVでたときに、竹久夢二、岩田専太郎、灘本唯人というので企画出演したんです。第三者がみれば何か共通しているところがあるんでしょうかね。竹久夢二も岩田専太郎なんかも自分ではよく知っているつもりなのに、そういうテーマでたんですね。

早川 フォルムに共通項がありましたね。

灘本 はじめは早川先生に似ていると攻撃された。自分にまわりついたその早川先生を離れるためには、誰かを目標にしなければならぬ。だからといって夢二を目標にしてはいけませんよ。僕の場合は不純動機で、「灘本さんなんで女の絵を描くんですか」と言われて「金もうけになるで。それを描いてれば一生食える。」と。(笑)一番需要が多いのは女の絵だと。それで最近少しあきてきたんですが。男を描いたり、時代ものを描いたりして、自分の中で可能性をためているんですが。

★良いものは軽やかに

——今、軽みの文学、絵、デザインも流行しているようですが。

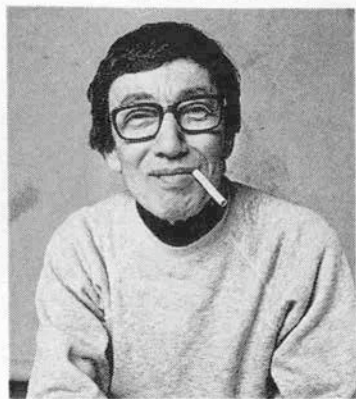
早川 その軽みも軽みすぎて。ニーチェの言葉に「良いものはすべて軽い」というのがあるそうです。先年亡くなられた美術評論家の今泉篤男さんが、戦後初めて外遊して、方々の美術館をみてきて、書いた本にこのニーチェと同じような言葉があったのを鮮やかに憶えています。ループルとか全部まわったが、本当の傑作というのは画面の表情が涼やかであると。そういうのは本当の軽さですね。ところが、僕の場合は軽薄だと。(笑)ニーチェとちよつと違うんですね。(笑)

灘本 今、僕の顔を見て、そうおっしゃった。(笑)

それに、関西系の人には色使いが鮮やかでいいと思います。東京の人に比べて。

早川 風土の問題ですね。

1985年頃の瀬本唯人氏



瀬本 最近、若いイラストレーターの中に抽象的な方向に走る傾向がみられ難解になりつつありますが、我々は明解なものを描いて支持を得てきた。それが今は難解。横尾忠則もデザインを放棄し、アートの方が上等だという。それはアメリカでもそうらしいですが。

早川 デザインという仕事は自分を100パーセント出せない仕事です。だからなんとかして100パーセント出した、簡単にいえばそうです。

瀬本 そうすると仕方なく、アーティストになればいいか、イラストレーターを棄てきれずにアーティストイックなものを追求めたらいいのか、わからない。これからゆくえというのが非常に興味深いところですが……。

早川 ボーダレスの段階、両棲動物みたいな状態ですね。過渡期としてそういうのがあってもいいじゃないか、中

間的ジャンルができるかもしれませんね。
瀬本 どこまでイラストレーションとしてみてしまうかということが問題だと思います。

早川 いいイラストレーションというのは「効果」がいちばん大切なんです。たとえば、セザンヌの卓上静物、リンゴの絵がありますね、あれの、バックの壁やカーテンの描写を全部やめてしまっ、真白な平塗りにしてしまおうとします。

これはもう、絵画としてはルール違反もいいところ、めっちゃくちゃになりますね。ところが、イラストレーションとして見ると、その方がずっと効果的でインパクトも強い……ということがあり得るのです。

画面の下半分が重厚な写真で、上半分がキャンバスそのまの真白……、この極端なコントラスト、破調が、デザイン感覚で見たときのイラストレーションの魅力につながるのです。

また、りんごと果物皿だけを充分に描きこんで、あとはすべて淡彩の線だけで処理してしまうとか……。こういう、いわば既成の造型文法を無視して自由自在に振舞えるところが魅力なんです。近頃は、タブローのなかにも進んでこの方法を意識的にとりこんでいるのが多いですね。やはりここでもボーダレス現象が起きているとみていいでしょう。

僕は、印象派の画家たちが浮世絵の魅力にとりつかれたのがよく分かります。この場合は主に、その大胆な構図にびっくりしたらしいのですが、やはり先ほど言った、西欧絵画には無かった極端な「省略」の効果が影響されたと思うのです。つまり、浮世絵はすごくイラストレイティブな絵なんです。

瀬本 われわれは現代の浮世絵師というところでしょうかね。

(新橋第1ホテルにて)

担当/浦

神戸の
デザイン特集
(2)

□インタビュー
神戸のデザインを考える

シアター
デザイン劇場を
神戸のド真ん中に！

神戸デザイナーズ協会理事長

原 康夫 氏にきく



—神戸のデザイナーズ協会はいつ頃出来たんですか？
神戸のデザイナーズ協会としての歴史は10年ですけれど、神戸は結構デザインの歴史は古いです。昭和27年ぐらいからでしょうね。戦前は神戸の大丸の宣伝部にいらつしやった西宮の今竹七郎さんとか、神戸博のポスターで活躍された中村真さんとかが神戸のデザインのルーツです。神戸デザイナーズ協会は、インテリア・グラフィック等あらゆる分野のメンバーが入っていますが、大体グラフィックですね。戦前はデザイン同好会みたいなのがあっても、ほとんど活動していなくて戦後になって団体らしきものができました。今の星電社の会長の長谷さんが神戸新聞社時代に、もう少し大きくしていこうじゃないかということになって、「神戸宣伝美術協会」ができて、「兵庫県宣伝美術協会」ができたのです。今のところデザイン関係がグラフィックだけでは、やっていけないので作家の集団というか、「職能団体」としてやっています。いま、三宮界限を走っている、シテイループバスなどもプロジェクトを組んでやりました。車体が独特だから、カナダのボデイマーク会社に頼んだりして大変でしたよ。作品をオリジナルで発表するのでもいいけれど、

今は環境デザインとか広い意味での仕事を中心です。

4月から県が工業試験場を産業デザインセンターにして県の役員のデザイナーだけではワンパターンなので、うちが手伝っています。多少ボランティアみたいですが、9月の初旬に県と合同でシンポジウムを開催して、物産のデザインのいいものを集めて展示会をしよう。

行政と協力しながらやっていこうと思っています。役所としてはなく、兵庫県産業デザイン振興協会をどういうふうにしたらいいか模索しているんです。市町村の経済団体を第3セクターとして協力してもらおうとデザイナーはやりやすいのですが。グラフィック、インテリア、店舗、工業デザインの4つが頭の冴えた人を必要としていて、両方の橋渡しばかりしています。大事な点は職能団体としてやっていかないとダメということです。

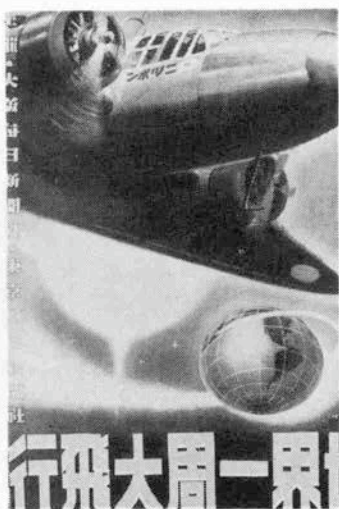
—大成功のシテイループバスのように行政と一緒にデザインするというのは神戸らしいですね。

—今、神戸芸術工科大学に期待しています。アメリカの大学をまわって気付いたことは、外部から情報を集めて生徒に還元しているんです。日本はそういう点が遅れますね。芸工大はいろいろ工夫しています。ここがデザイ

ンの発信基地となつてほしい。工房をつくつて活性化をはかりたい。市長にもお願いしているのですが、お金がかかってもアメリカの大学のように、若い優秀な教授が必要で。だから、神戸もお金がかかっても、外国の優秀なデザイナーを教授に呼ぶべきです。

通産省も、運動が全国的に広がっているけど、兵庫県はまだ遅れています。貝原さんが「もっとデザインに力を」と言われたのでやっと力を入れ始めたんですよ。

それから工房が必要です。発表の場がないんです。アパレルも含めて、市と県が器をつくらないといけない。イベントでちよこつとやるのではダメです。実験工房として、新しい情報の集まる場所がほしい。スペースとしては、少なくとも100坪で3〜4階建てのものがいいです。経済面では、企業からの援助を受けて……。兵庫デザインセンターをつくる時、15〜20億円の基金を集めてやらないといけないと言ったんです。



1939年 今竹七郎作品



'86に開かれた県立近代美術館のパンフレット

——場所としてはどんなところを希望されていますか。
ロンドンにある国営のデザインセンターは、賑やかなところにありますよ。ピカデリーサーカスの人の流れの多いところで観光客も入っていくし、一目でデザインのこと分かる。神戸もセンタープラザとか町の中心のエキサイティングなところがいいですね。

——神戸ブランド研究会なんかをつくってみては……。
鞆でも組合のブランドをつくれと言っているんです。

産業を盛んにするには個人ではできないし、アクセサリなども見えなかったら駄目になる。グローバルに物を見ないと駄目です。役所と企業が一緒にやっていくという第三セクター方式をとるべきです。神戸は若い人が北野等に来たりするから環境に合わせて見せる場所をつくる必要があります。今、問題なのは神戸のアーチストが使える美術館が人の集まる街中に無いことです。デザインはエンターテイメントですからね。ルーブパスも団体だからできたのです。今年から産業デザインセンターができてそこを大きくしていこうと思っています。建築関係にも、もっとデザイン感覚がほしいのです。面白味のない建物になってしましますから。総合的に縦割りではなく、道一つつくるにも、デザイン・建築などの横のつながりをしっかりつくっていきたい。経済局もすべて、一緒にやっていかないと神戸市全体のポリシーがなくなる。神戸市にデザイン課がないというのはおかしい。大阪市にはありますよ。企業だけでなく行政のカバーもいりますから。三宮の下真ん中に「神戸デザイン劇場」みたいなのはどうでしょう。とにかく器が必要です。ルーブパスが神戸の町を走ったのですから、この提案をぜひといてほしいですね。若者が面白がってどんどん見に来て買えるような。ファッションショーも、デザイナーの作品も、面白いグッズもあるような。ここが神戸だというようなエンターテイメントのあるモダンなデザイン実験工房がぜったい必要です。

担当／松森

□キャンベーン □国際文化都市神戸を考える

神戸のデザインを考える

デザイナーのアイデンティティ が反映するスペースの提供を

□座談会出席者（敬称略・順不同）

上田 諱三男

〈神戸ウベデザインセンター〉
代表取締役

藤田 喬彦

〈藤田デザイン事務所〉
日本インダストリアルデザイナー協会会員

杉本勇和次

〈神コング・アレダメント〉
代表取締役

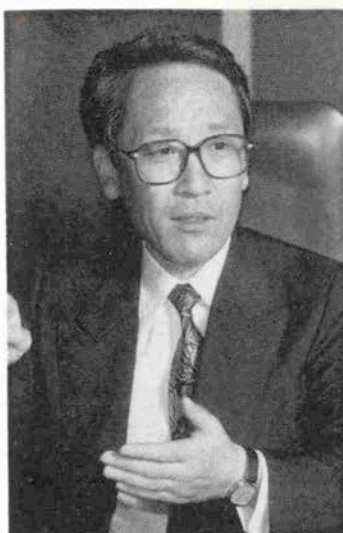
引地 邦夫

〈シッパス・インコーポレイション〉
取締役・プランニングディレクター

シャーリン・
W・ダイヤ

〈シャーリンオフィス〉
フASHIONディレクター

去る4月21日、神戸デザイナーズ協会のバックアップで兵庫県産業デザイン振興協会が発足。神戸においてもデザイン界での新しい動きが出て来ています。そこで今回のキャンベーン座談会は、デザインの各分野の第一線で活躍されておられる方々にお集まりいただき、デザイン界の最近の動きや今後への提案などを伺った。

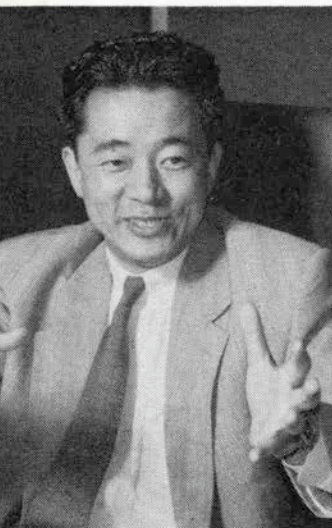


上田 諱三男 さん

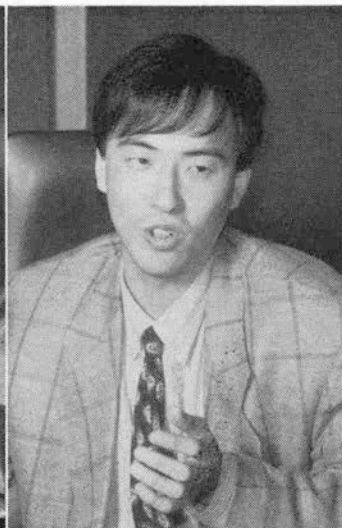
★積極的にアピールする海外デザイナー

上田 私の場合、グラフィックデザインと言いましても、パッケージが主体なんです。例えば、ビールのラベルや煙草の箱なんかを扱っているんですが、やはり、スポンサーのおっしゃる意向をくみとってデザインしなければなりませんから、全てに制約がでています。そこで、神戸デザイナーズ協会以外に私が所属している日本パッケージ協会では年に一度、自由ボックス展という、とにかくデザイナーの思いのままの作品を発表できる展覧会を東京と大阪で開催しています。日頃の憂さをそこで晴らすといった感じで、私の周囲のデザイナー達も参加しています。

藤田 インテリアデザイン（以下ID）の立場でも、デザインの制約はきつくて、デザイナーがメーカーの意向に、いかに従うかということになっています。どちらかと言うと、IDのデザイナーは最近、デザインをしないというのが現状なんです。要するに、コンセプトメイキングやライフスタイルの研究等をするのが、即ちデザインになっていまして、線を引いたり、絵を描いたりといった作業は機械にまかせているんです。企業においても、デザイン室という名称が無くなってきて、ライフスタイル研究室とか、総合デザインセンターなどの名称になってしまい、デザイン部門というイメージは減り



杉本 勇和次 さん



引地 邦夫 さん



シャーリン・W・ダイヤ さん



藤田 喬彦 さん

つつあります。現実のセクシオンとして「デザイン」という言葉自体が無くなってきているんですね。そんな中で、上田さんもおっしゃった様に、憂さ晴らしもやっています、例えば、神戸以外に私共が所属している日本インダストリアルデザイナーズ協会では、発想の自由な展覧会をしていたり、一部のメーカー側の展覧会ではデザインの枠を越えた、さらに自由な発想ができることで作家としての息抜きが、かろうじて出ています。

ダイヤ バックステージのお話が出ましたが、私もその方面に携わっているんです。ただ、私の場合はコンセプトプランニングの時点から制約を受けないで、自分のやりたい事を表現しているんです。いわば、自分達で制作して、その発表の場を探して展開していくという方法です。ですから、やはり周囲からいろいろと言われたりしますね。仕事の姿勢が大陸的なので（笑）。

一同（笑）。

ダイヤ 私の仕事のベースはファッションで、ショップのプロデュースやコーディネート、特に、マーチャンダイジングを主に手掛けているんですが、よく思いますのはアートの分野で、なぜデザイナー達はアイデンティティをどんどん外へ出していないのかということです。先日、ニューヨークで2回目の「インターナショナル・コンテンポラリー・フアンチャー・フェア」を見てまいりましたが、デザイナー達の表現の仕方がとても上手だと思いましたね。作品をつくって、自分でPRしているという点で。日本のデザイナーに、そんな傾向はないですね。

上田 そうですね。海外の美術学校の学生なんかは、自分の仕事の成果を自分でPRしないと会社へ入れないんですよ。教育の仕方が日本とは違う。日本では、ところてん方式で学生が企業に入っていくでしょ。だから、実社会に出ても自分から積極的に売りこんだりせず、言われたことだけをこなす体制になってしまっています。

ダイヤ そう、受け身の姿勢なんですよ。

一方で、海外のデザイナーの作品は、それだけを見ても刺激になりますし、おもしろいことに建築物であろうと、インテリアであろうと、プロダクトまで全て手掛けるんですよ。その辺が、日本のデザイナーとアーチストとの違いで、インテリアデザイナーでも家具をつくるし、プロダクトデザイナーかと思えば、意外と建築家だったりする。

藤田 ヨーロッパでは、殆んど建築家がIDをしていすよな。

ダイヤ そう、そう。建築家が照明器具をつくったりするの。

★神戸の土壌を活かした活動ができれば

ダイヤ まず、デザイナーが作品を発表する場合、日本には少ないのが残念ですね。

上田 メイドイン神戸のデザインを考えるなら、作品を発表できるスペースの提供から手掛けないといけないと思いますね。

ダイヤ 今、ギャラリーと言うと絵画が中心で、IDやパッケージなどの立体物を扱うギャラリーがないですね。ニューヨークにはたくさんありますよ。

藤田 ただ、神戸の場合は、デザインをまだ何年も前の商業美術というニュアンスのとらえ方でしか見てないと思うんです。

引地 全くそうですね。神戸ではデザイン・インフラもそうですが、デザインにおける商業的なインフラさえも確立されていないですよ。だから、神戸から情報が出ていても、最終的に加工されるのは東京なんです。

上田 大阪や東京の仕事が殆んど中心ですが、それらのスポンサーは神戸だったりする(笑)。つまり、こういう流れがあるんですよ。だから、関東のデザインと関西のデザインの違いなんて何もない。でも、ヨーロッパと比較すると少し違いがあると思います。日本人の癖がわかりますね。

杉本 バタクさいという。

上田 そう、そう。少なくとも日本の中で昔はあったみたいですね。民芸品等の類のもので、何となく地方性が出ていたりして。でも、今はないでしょ。国際化していく中でデザインを考えてみても、かなり希薄になってきていると思います。

杉本 その街、風土性みたいなものがね。

上田 さんと同じように我々の業界でも、東京や大阪の業社が工事を受注し、それを神戸へ発注するという流れがあります。神戸の業社はおいしい所を東京や大阪にさらわれて、結局、お手伝いをしているという感じに思えて、私自身はこの流れに不満があるんですね。そこで何とか、それを食い止めることはできないかと思うんです。そのためには、やはり、神戸のアイデンティティを確立していかないといいんじゃないかと。で、私が考えているのは、高架下の見直しなんです。あの通りはお店の看板に、右からカタカナで字が書いてあったり、どこそこカンパニーだとか、中国語で書いてあったりと、独得の雰囲気がありますね。あれは、東南アジアに西洋文化が入ってきた頃のコロナアルの名残りで、まさしく神戸のオリジナルじゃないかと思うんです。おそらく、東京にその風情は残っていないでしょうし。外来の文化を吸収することで発展してきた神戸の文化を、今、改めて見直してもいいと思いますけど。

上田 外的要因から神戸は、いいイメージをもたれているんですよ。だから、神戸でデザインのイニシアチブがとれるはずですよ。何かが神戸から発信されたらね。

杉本 それは、宮崎前市長のおかげだとも思うんです。日本の中で神戸の位置づけ、イメージがあがりましたよ。

ある雑誌に、複数の女性誌に掲載された店舗の紹介ページがあって、その中に10〜15程の店舗が載っているんですが、2、3件は必ず神戸の店が入っています。大阪や京都の店がない時もあるのに。やはり、日本の情報リソースが神戸を注目し、それだけプロジェクトがあつて、

今後、伸びていくだろうと予想されているんですね。だからこそ神戸は、やりがいがあると思っっているんです。

引地 そう思いますね。私は、ずっと神戸に住んでいるんですが、仕事場は大阪だったんです。神戸に来て一年ぐらいになりますが、これから神戸には、新空港が計画されていたり、他にもいろんなシステムが揃ってくる、何かおもしろい事がここで出来るんじゃないかと思って期待しているんですよ。

ダイヤ 私も神戸の街がとても好きなんですけど、現実では、まだ仕事が少ないですからね。しかし、広告代理店、特に、グラフィック関係においては日本の独得のシステムが出来ているみたいですね。

上田 代理店がデザインブランディングを細分化しているという点で。例えば、ディレクターの上はまだチーフディレクターがいたりして。昔のデザイナーは、全て自分でやっていたし、企業コンサルタントまでやっていたりしましたよ。当時は、地方だったからそれが出来たのかも知れませんが、今は代理店システムがある上に、日本流の縦割り社会が加わるから仕事をする範囲が狭くなっています。

ダイヤ 特に、ブランディングやグラフィック関係では、デザイナー達のアピールする場所がなくなってくるわけね。

引地 それに、例えば、音楽や本なら著作権があつて、いわゆるロイヤルティがあるかも知れませんが、デザインの場合は情報が育むものですから表層機能、本質機能が問題になります。やはり、情報化社会の中では表層機能の方が優位になりますし、それに日本の場合は、特に、それを重視しますからデザインの著作権なんてとんでもない話になる。要は、物質の機能性だけでしか判断されないんですよ。これから期待したいですけど……。

杉本 外国の話ですけど、家具のデザインの場合、例えば「アッシーナ」というメーカーなら商品の後にデザイナーの顔写真が貼りつけてあるんですね。と言うことは

「アッシーナ」は、あくまでも、製作販売会社であつて、デザインに関しては、デザインオフィス、或いはデザイナーのロイヤルティを認め、確立しているんですね。逆に、日本ではデザインとは単なる味つけであつて、中身の方しか重視しない。コンピュータで言うなら、チップの方です。デザインは、最終的に加わるものだというジレンマに陥っているんじゃないかね。徐々に、考え方も変わってきているようですけど。

★プレゼンテーションが強い人ほど神戸から出て行く

ダイヤ 日本のデザイナーは、仕事をたくさん受けて作業だけで終わっています。海外のデザイナーは、勿論、受注した仕事もするけど、それをしながら自分の好きなものをつくってそれを発表する場所を一生懸命探すんです。別の形でアイデンティティを産みだし、売りこんでいる。そして余裕をもって仕事をしている人が多いですね。

杉本 ライフスタイルも全然違いますしね。

ダイヤ でも、売りこみ方が違う。日本には、ハングリ精神がないのかしら。

杉本 日本は、もともとハングリだからありますよ（笑）。

上田 仕事をたくさん抱えこむぐらいだから、ハングリーですよ（笑）。

一同 （笑）。

引地 日本の場合は、代理店が仕事をもってくるから、何となくそれを継続してしまつて仕事に追われ、ぬかるみにはまってしまう。

上田 とにかくデザイン料が安いから。

ダイヤ あと、日本のデザイナーはプレゼンテーションがうまくない。それと、フットワークも。

藤田 神戸で仕事をはじめて、シャーリンのおっしゃることがリアルにわかりましたね。神戸では、デザイナーにクラフトマン意識があつて、自分から能動的にクライ

アセントに売りこんでいく雰囲気がありません。

ダイヤ そこで、海外デザイナーの積極さと、彼らのクリエイティブさを見れば刺激になると思うんですよ。

杉本 その刺激は、いいと思いますよ。刺激を受けないと、ぬるま湯の中で自給自足のままでは大きくなれないですよ。

藤田 神戸は良くも悪くも、みんな仲間意識が強い。でも、そのお陰で飯が食えるという現実があります。

ダイヤ そうなんですよ。

引地 プレゼンテーションが強いデザイナーほど、東京や大阪に出て行ってしまうですよ。神戸では、ロイヤルティみたいなものが確立できないと考えて、実績をつくるために出ていくんですね。

藤田 私も神戸が好きですし、今は東京であるうと、大阪であるうと飛行機や新幹線、ファクシミリを使えばリアルタイムで情報交換できるでしょ。その中で「これが神戸だ」と言えるものをつくるためにも、もっと発表する場所がほしいですね。

引地 おっしゃるように、情報化社会の中で作業としてはできますけど、商売の話となると、結局「FACE TO FACE」なんですよ。デザインは情報産業といえども、意思決定となるとクライアントとの距離が重要になります。

上田 つまり、ハード面だけでは解決しない。お互いが思っているニュアンスが伝わらないと、なかなか話が前へ進まない。信頼関係の上で成り立っているんですよ。企業が新製品を押し出す場合、特に直接会わないと熱意が伝わらないと考えるんです。

★神戸デザイナーズ協会のパワフルな発表の場づくりを

上田 神戸のデザイン業界に必要なのは、まず、それととりまく環境の整備ですね。

杉本 それと、もっとデザイナー自身がキャラクターを

もって、いかにプレゼンテーションしていくか。

上田 シャーリンのお話にもありましたが、海外のデザイナーが自分でPRしているように、「ここに優秀なデザイナーがいるんだぞ」ということを我々自身が訴えていかなければいけませんね。

杉本 それと、神戸デザイナーズ協会も、もっと会員を増やして活発に活動していきたいですね。ここで見直さない。

藤田 デザイン団体が、京都で8団体、大阪で16団体あるというのに、神戸デザイナーズ協会は兵庫県下で唯一のデザイン団体なんですよ。なのに、まだ会員が100人に達していない。

杉本 しかし、縦割り業界の中で、横のつながりを広げるためにもネットワークを広げることが先決ですよ。

ダイヤ そう、もっとグローバルに。

杉本 だから、協会として積極的にアピールし、プレゼンテーションをやってアイデンティティを確立すれば、もっと活発になるんじゃないかな。神戸の人は、結構、自己顕示欲が強いはずだと思うんですけどね。

藤田 でも、毎回理事会で「今年はデザイナーズ協会の展覧会をしよう」と言って、もう10年近くになりますからね（笑）。新しい展示場などでやりたいですね。

ダイヤ ここで、テーマをつくってオリジナルなものを協会が発表してみたいかがですか。

杉本 会員はクリエイターばかりですから、ディレクターも必要ですね。

上田 考えてみると、デザイナーの団体とファッション関係等の異業種とのつながりが、今はないなあ。

杉本 一度、その辺から掘りおこしてはどうですか。

引地 とにかく、理念ではなくて、やはり、ビジョンですよ。そして発表の場づくりですね。

杉本 それに加えて、パワフルに活動したいですね。

（レストランブランドウブランにて収録）

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上 勉
神戸市中央区港島中町 6-5-1
TEL (078) 303-3311



キャンペーン「神戸の観光と魅力を探る」の
企画は以上各社の提供によるものです。

□神戸を愛する人々へ贈る
メッセージ



紅茶の時間

写真と文
稲田 勝己

△FDB代表▽

霧雨の窓に、遠くの山が緑豊かに。
きょうの六甲は、山水画のような風景に、低く雲が流
れてゆく。

新しい生命を受けたように、あじさいが仲よく、小さ
な花をよせあつて咲いている。

雨のしずくは、丁度、真珠のように輝いている。
ほっとひと息、お茶を飲む時。

気に入ったティーカップに、ライムを入れて。
時間を忘れて聞こえてくる自然の音に、耳をすませる。
時々、静かな街並みがいい。

諏訪山、そして有馬街道。

山すそに川が流れ、昔の景色が生きている。そして、
そこにある。

天王山温泉や平野温泉。

神戸に住んでいても、まだ訪れた事のない人もおおい
だらう。

この近くの楠谷には、最近、水の科学博物館が出来て
いる。

街路樹もだんだん整備され、美しい街並みに、トアロ
ード、居留地界限は、変わってきた。少し行かないうち
に、装いが全く変わって、「ええ、こんなに変わったの」
と言いたくなる位、美しくなってきた。

最近、平野交差点山側で、低層階の建物を推進した。
この地域は、なかなか開発が難しいようである。

約2年、何度も話し合い、考え、オーナーの方の理解
で、経済コストよりも、街並みを重視した。こんな街づ
くりが、ひとつひとつ草の根から平野を変えてみたい、
という願いからスタートした。

誰でも、こんな街にゆつたりとした居住空間を持ちな
がら住みたい。

市内にも、15分たらず。

今、観光地になった街は、なかなか生活環境が難しく
なってきた。

老朽化した家屋は昔の建物で、なかなか思うようにリ
フレッシュ出来ない。しかし、経済性や、住む人、訪れ



LES COLLAN
DEPUIS 19

る人、そしてそこに住んでみたいと言う意識によって、大きく流れが変わることと想っている。

ところが美しい建物が出来たとたん、今までの取り決めで、鉄骨の軍艦色のアーケードがまた取付けられた。

どこの地域でも、なんとか再開発をして欲しい、整備して欲しいと言うかも知れないが、この地域の場合は、今のアーケードが、何か新しいものを求めても、セキ止めているのかも知れないと思った。

何でも反対。でも、時には賛成もいい。皆んな賛成でも、ひとり反対なら、その意見もよく耳を傾ける事が必要だろう。しかし、気づいた時は遅いかも知れない。

朝の新神戸駅でカード電話をかける。5台の内2台、ひどい時には、3台故障。何度クレームを言っても、分りましただけで、何も分かっていないようである。神戸の表玄関しかり、こんな状態は、全国の人にも、ごめんなさいである。

朝の一杯の珈琲。

そして10時のTEA TIME。

毎日同じシートに、いつもの時間が過ぎ、こよなくこの店の、この席の、この風景が好きになれる、神戸の街であって欲しい。

神戸を訪れ、遠いふる里に帰り、またお茶を飲み、旅の話に花が咲く頃、また訪れてみたい街、住んでみたい街、こんな街になんとかなって欲しい。

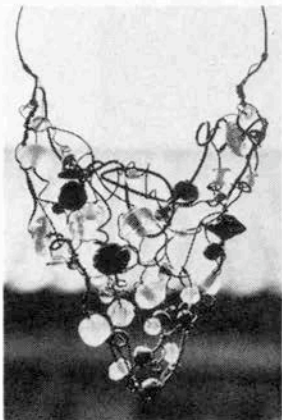
■ いなかつみ

(F・D・B代表者、プロデュース) 一九五〇年生れ。大阪市立第二工芸園案料卒業。EXPO・'70京都駅前再開発、その他、商業施設プランを手かけ、79年にF・D・Bを設立。

OFFICE

☎ 392-0461

KAKINUMA GALLERY



葛の露

(ガラスクラフト)

山口三絵子・作

川西南公民館にて
教室主宰
奈良あーとさろん・
宮崎にて年1回個展
開催

葛や時計草のよう
に、つるのからまる
植物が好きで、でた
らめな形や不確かな
ものに引かれます。

このネックレス
は、つるが自由に伸
びる中に、露のよう
な水のようなガラス
をからめました。こ
もれ陽や夕暮れの
紫、海に足をつけた
時や色々な時を止め
て、心の奥の記憶を
形にしたものです。

フツと懐しさを感
じる方は、きっと同
じ“時”を持ってい
るのだと思います。

(柿沼産婦人科に展示)
(7/1~7/31)

芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎(0797) 31-1234 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

SAKAEMACHI JAZZ STREET

★ビュッフェコンサート
チャリティ留学生と共に

森 哲 也 ブルースを詩う

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

'907月7日(土) ★★★

□神戸栄町4丁目 ★★★

和田興産ビル2F ★

★栄町ホール

☎ 078 (361) 1100

★第1部/午後2~4時 70名

★第2部/午後5~7時 70名

いずれも会費(税サ消含)

¥ 10,000

★第3部/午後8~10時

於 Day by Day ¥ 5,000

ゲストシンガー/緑 ゆみ子

バック演奏/中野輝雄クアルテット

司 会/松島 武雄

□主催/森哲也を励ます会 □後援/月刊神戸っ子

□お問合せ/Day by Day ☎ 392-4173

□協力 和田興産株式会社

神戸市中央区栄町通4丁目2ノ13 ☎078(361)1100(代)

□第15回

神戸文学賞作品募集

本誌は昭和51年に創刊15周年記念として神戸文学賞・神戸女流文学賞を創設いたしました。これまで左記の通りに各賞の受賞作が決定しておりますが、第11回の募集より、さらに質の向上をはかるため「神戸文学賞」の名称に統一、受賞作を「作品」として、現在、広く作品を募集いたしております。

- ・第一回神戸文学賞「島之内ブルース」(田原新二 尼崎市) 同女流文学賞「ベットの背景」(小倉弘子 大阪市)
- ・第二回神戸文学賞「地盤」(奥野忠昭 大阪府柏原市) 「生活」(吉峰正人 神戸市)
- ・第三回神戸文学賞「自由と正義の水たまり」(蒼竜一 奈良市) 同女流文学賞「夢の消滅」(大原由紀子 高知市)
- ・第四回神戸文学賞「溶ける闇」(高木敏克 神戸市) 同女流文学賞「影と棲む」(田口桂子 伊丹市)
- ・第五回神戸文学賞「該当作なし」 同女流文学賞「該当作なし」
- ・第六回神戸文学賞「ガチャマン」(南禅満作 神戸市) 同女流文学賞「該当作なし」
- ・第七回神戸文学賞「凶鳥の群」(徳留節 京都市) 同女流文学賞「花いちもんめ」(新光江 鳥取市)
- ・第八回神戸文学賞「昔の眠」(服部洋介 神戸市) 同女流文学賞「薔薇の登音」(菊池佐紀 愛媛県)
- ・第九回神戸文学賞「ステラルプラグ」(桑井朋子 高石市) 「いちじく」(宇山翠 北九州市)
- ・第十回神戸文学賞「該当作なし」 同女流文学賞「該当作なし」
- ・第十一回神戸文学賞「おどろろ海賊」(塚田照夫 長崎県) 「オレンジ色の闇」(舟木かな子 神戸市)
- ・第十二回神戸文学賞「眠父記」(田能千世子 茨木市) (この回より神戸文学賞と同女流文学賞を一本化)
- ・第十三回神戸文学賞「夢食い魚のブルググッドバイ」(釜谷かおる 高砂市)
- ・第十四回神戸文学賞「風車の音はいらない」(上田三洋子 長岡京市)

ここに第15回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに清新かつ強力な作品の出現を期待する次第です。

〈募集要項〉

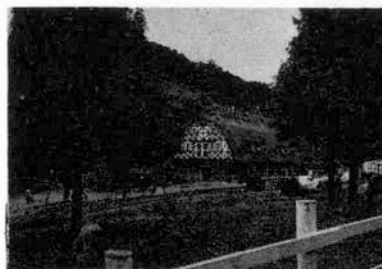
- 一、応募作品は小説とし、応募資格は問いません。ただし応募作品数は一篇に限りです。
- 一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限りです。
- 一、原稿枚数は四百字詰70枚。
- 一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品梗概をつけて下さい。
- 一、締切りは八月三十一日(当日消印有効)
- 一、受賞作品発表は本誌一九九一年新年号誌上で、同号より作品を掲載します。
- 一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。
- 一、受賞作品の著作権は本誌に属します。
- 一、受賞作品には副賞として賞金三拾万円が贈られます。
- 一、原稿の送り先、お問い合わせは、神戸市中央区東町一三の一 大神ビル九階 月刊神戸っ子「神戸文学賞係」まで。

電話〇七八一三三一―一二四六

〈選考委員〉杜山 悠・武田 芳一・鄭 承博 主催／月刊神戸っ子

六甲山 Gourmet Tour

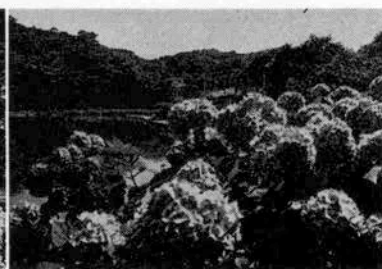
——六甲山を楽しむための
たったひとつの冴えたやりかた



六甲山牧場では牛たちがのんびりとくつろぐ



大人にも子供にも人気のある六甲高山植物園



六甲山名物のアジサイは、今からが見どころ

☆ご家族連れに

六甲ケーブル山上駅——1.2 km 15分——六甲オリエンタルホテル——0.8 km 8分——ゴルフ場——0.8 km 13分——六甲高山植物園——0.5 km 8分——新池——1.2 km 20分——心経岩——0.1 km 5分——雲ガ岩——0.6 km 10分——六甲山カンツリーハウス——0.3 km 5分——回る十国展望台——1 km 20分——極楽茶屋——3.6 km 60分——六甲ケーブル山上駅

難易度★

♡割合平坦な道が続く、ハイキングとして楽しめる。

六甲高山植物園や六甲カンツリーハウスは、子供から大人まで絶大な人気がある。デートコースとしても利用できる。

☆デートコースに

難易度★

三宮駅——市バス 10分——諏訪山公園——4 km 70分——再度山、大竜寺——0.7 km 15分——修法ヶ原——1.5 km 20分——教育植物園——1 km 15分——森林植物園——0.7 km 10分——長谷池——0.7 km 10分——トウエンテイクロス出合——2.8 km 40分——市が原——2.7 km 60分——布引——市バス 5分——三宮駅

♡さほど難しいコースでなく、その上、途中で二人が寄り添わないと歩けない静かなところがある。愛を

語らうにはびったり。

☆初級者向き

難易度★★★

三宮駅—市バス 5分—布引—1.3 km 30分—布引貯水池—1.4 km 30分—市が原—0.6 km 15分—トウエンテイクロス入口—0.8 km 30分—分水嶺越分岐点—1.5 km 40分—八州嶺ダム—0.7 km 15分—黄蓮谷分岐点—0.6 km 15分—桜谷分岐点—1.2 km 40分—アゴニー坂登り口—1.4 km 40分—摩耶山頂掬星台—ロープウェイ、ケーブル、市バス—三宮駅
♡トウエンテイクロスでは飯盒炊餐をしているグループの姿がよく見られる。

☆中級者向き

難易度★★★★

白鶴美術館 3 km 40分—五助堰堤—2.9 km 60分—本庄橋—2 km 40分—一軒茶屋、最高峰—4 km 60分—有馬

♡最高峰から臨む有馬の景観は絶品。有馬へのルートの中でも、最もポピュラーなコース。下山してからゆっくりと温泉に入るのもいい。

☆上級者向き

難易度★★★★★

阪急六甲駅—市バス 10分—六甲ケーブル下駅—1 km 15分—有料道路との分岐点—0.8 km 20分—真水谷との分岐路—1.1 km 40分—前が辻—1.5 km 20分—ダイヤモンドポイント—2 km 50分—地獄谷堰堤—2.2 km 30分—神鉄大池駅

♡所要時間は短い、山あり谷ありの難関コース。山歩きの実験の少ない方は、中級者コースまでで止めておくのが賢明。

ところで、六甲山へ行っても、ただ自然の空気に触れるだけじゃつまらない。ひと晩泊ってもいいし、六甲山には一体どんな施設があるのだろうか—という疑問

を持っている人もあるはず。

そこで今度は月刊神戸っ子厳選の、グルメ&観光スポットをドーンと紹介してみよう。ガイドブックにも載っていないところもあるので、これは必見!

六甲山カンツリーハウス

☎891-0366

夏でもスキーが楽しめる「グラスノースキー」バーベキューなどが出来る「デイキャンプ場」。バターだけでプレイする「ベビーゴルフ」二人で息を合わせてこぐ「ペダルボート」など、大自然の中で心と身体をリフレッシュ出来る。デートにも、ご家族連れにも。

六甲高山植物園

☎891-0366

7~8月にかけては、キンロバイ、コウホネ、ヒツジグサ、チダケサシ、ハガクレツリフネ、ウメバチソウ、オカトラノオ、ホタルブクロ、キレンゲショウマ、イワタバコなどの花が華を競っている。東入口脇には喫茶店もあり、子供連れには最適。

六甲山フィールド・アスレチック

☎891-0366

自然の空気の中で天然の素材に触れて流す汗が気持ちいい。自然を相手にするから、大人も子供も楽しめる。工夫を凝らした全40コースを突破すると、きつと爽快感でいっぱい。大人には体力づくりに、子供には夏休みのいい思い出に。

六甲山牧場&神戸チーズ館

☎891-0280

全体を見渡せないほどの牧場の中には、羊、乳牛、う

TOPICS ●まほろしのアジサイ

シーボルト著「日本植物誌」で紹介されたものの以後長い間発見されず、1959年に偶然にも六甲山で発見された。高さ1~1.5mの落葉低木で、恐らくはヤマアジサイの一種だとされている。枝先に小さな花をつけ、最後に残った飾り花は八重咲きになり、萼片が星型になって重なり合う、非常に愛らしい花。6月13日に花の万博でも紹介された。

さぎ、山羊、馬が放牧され、じかに動物たちに触れられるコーナーがある。また神戸チーズ館では、大人気の神戸チーズを製造・販売している。

六甲山ジンギスカンパレス

☎891-0225

六甲山にちなんで六角形に造った全天候型の建物。約200人が収容でき名物のジンギスカン料理が存分に楽しめる。

神戸ゴルフ倶楽部

☎891-0364

英国人グルーム氏が開発した日本最古のゴルフ場。英国風マナーを受け継ぐ名門コース。神戸の街を見下しながらプレイできる。全18ホール、3658ヤード、パー61。

回る十国展望台

☎891-0649

軽食・喫茶店で休憩しながら、全体が360度回転するので、ゆっくりと周りの展望が楽しめる。遊び疲れた時の目の保養に。

えーでるわいす

☎891-0366

山のロッジをそのまま使ったような喫茶店。六甲高山植物園の東口付近にある。暖炉がしつらえられた木造りの店内では、ひよっとしたら山男が珈琲を飲んでいるかも知れない。

六甲山郵便局

☎891-0200

局員デザイン・製作による花の絵をあしらった絵ハガキがある。シルクスクリーンを使った3色刷りのものだが、常時製作している訳ではないので数に限りがある。

ホテル凌雲荘

☎891-0223

全館和室で、大阪湾が臨める眺めの素晴らしさと静けさで、新婚旅行者が利用することもある。

六甲山ホテル

☎891-0301

北欧風の近代的な本館の他に、昭和4年に完成したという本造の旧館がある。旧館は女性に人気がある。

六甲オリエンタルホテル

☎891-0333

アルプスの山荘風ホテル。全室が海側に面していて、大阪湾を眼下に臨む眺めは最高。

グランドホテル六甲スカイヴィラ ☎891-0140
広間が多いので、研修や宴会に利用されることが多い。
四川料理がメインで、ジンギスカンなどもある。

観光施設やレストランは分ったけれど、できれば何かイベントのある時に行きたい、あるいは参加してみたいという贅沢な貴方のために、今夏の六甲山で行われるイベントガイドをまとめてみた。

六甲山カンツリーハウス

7月1日(日)●カンツリーギネス「カン・ツリー競技」

今年から新登場のカンツリーギネス。第1弾は1分間に釣竿でどれだけ空カンをつりあげられるかを競う「カン・ツリー」

7月8日(日)●カンツリーギネス「愛LOVE洗濯ばさみ」

カンツリーギネス第2弾。2人1組で、髪の毛に洗濯ばさみをいかに早くつけられるかを競う。

7月15日(日)●カンツリーギネス「長ぐつ遠投大会」カンツリーギネス第3弾。長ぐつ遠投大会。

7月22日(日)●カンツリーギネス「愛LOVEトイレトペーパー」

2人1組で1人の身体にトイレトペーパーを巻き付ける競技。早さときれいさがポイント。

7月29日(日)●親と子のゲーム大会

親子2人1組で参加するゲーム。

TOPICS ●六甲山町101番地

六甲山町にも、中央区の旧居留地にあるような旧番地があった。外国人居留者の住んでいた邸宅を番号で呼んでいたものである。今でもその名残りとして、番地を示す石が残っており、奥摩耶ドライブウェイと表六甲ドライブウェイの間にある三国池のほとりに密生した笹の中に、「101」と刻まれた石鎮が座しているのが見つかる。

8月4日(土)・5日(日) ●ガラタキヤンプ

8月11日(土)・12日(日) ●ミュージックキャンパ

8月12日(日) ●空・緑・風・感(フォークコンサート)

8月12日(日) ●真夏の雪まつり

8月19日(日) ●夏休み図工教室

★右記問い合わせ 六甲山カンツリーハウス

☎891・0366

第19回六甲山・摩耶山写生画コンクール大会

目の前に広がる自然をスケッチ。(中学生以下に限る)

摩耶山会場 7月29日(日) △雨天の場合は8月8日(水) △

A M 10 ~ P M 3

六甲山会場 8月5日(日) △雨天の場合は8月8日(水) △

A M 10 ~ P M 3

★右記問い合わせ 六甲有馬ロープウェイ

☎891・0031

摩耶山納涼盆踊り大会8月8日(水) P M 6 ~ 8 雨天中止

当日は天上寺の大祭日。深夜0時50分まで摩耶ロープ

ウェイが運行する。

★右記問い合わせ 六甲有馬ロープウェイ

☎891・0031

六甲山牧場アルプス祭 7月22日(日) △

親子で参加できる楽しいイベントの数々

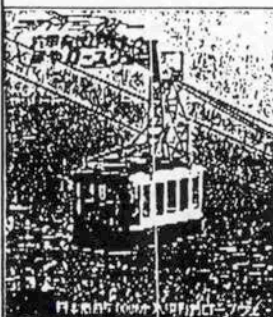
7月22日(日) ●羊と遊ぼう!! シープレース

羊と子供100人が参加するレース

7月29日(日) ●宝さがし

羊の耳票を探すゲーム

スライヤー 六甲有馬ロープウェイ



日本最長、延々、
五キロの空中旅情。

TEL.078(891)0031 FAX.078(891)0032

8月5日(日) ●スイス・アルペン音楽祭

アルプホルン・ヨーデル・民族ダンスなどで、牧歌的

雰囲気味わう。

★右記問い合わせ 神戸市立六甲山牧場

☎891・0280

あじさいホリデー六甲山グルーム祭 7月22日(日)

六甲山開祖のグルーム氏を讃える式典ほか

★右記問い合わせ 六甲摩耶観光交通委員会

☎861・5288

六甲山納涼夜景見学バス 7月23日(月) ~ 8月31(金) 土

・日曜日は除く

夜景とジンギスカン料理が楽しめる

・エコノミーコース 大人5千5百円

・デラックスコース 大人8千円

★右記問い合わせ 神戸市交通観光

☎321・5001

以上、駆け足でご紹介しましたが、この夏は是非、六甲山で気分をリフレッシュさせて下さい。

HANSHIN Mt. ROKKO

もしかすると、空の中かもしれない。

入 園 料 おとな600円 こども300円
営業時間 9:30~17:00(夏季9:00~18:00)
定 休 日 木曜日(ただし夏季7/21~8/31)
及び祝日は営業。

六甲山カンツリーハウス

阪神電車

お問い合わせ……………☎(078) 891-0366